

## 令和4年度「新・紀州林業への挑戦」研修会

**10年後の林業の担い手を考える**

～担い手不足に対する組織としてのアプローチと現場の満足度向上について～

- 1 日時 令和4年11月2日(水) 9:30～12:30 (受付) 9:00～
- 2 会場 ホテル&リゾート和歌山みなべ 1階 インペリアルホール  
(和歌山県日高郡みなべ町山内348)
- 3 主催 和歌山県・和歌山森林管理署
- 4 参加 無料/定員100名 ※事前申し込み必要
- 5 要旨

山村地域の高齢化が進むなか、労働人口の減少はとりわけ速いスピードで進行し、他産業との人材の獲得競争はますます激化していきます。

こうしたなか、林業が地域の持続的な産業として発展していくには、林業事業体における新たな担い手の確保・育成と定着はその根幹となるところです。

そこで今回は、私達がこれから目指す「新しい林業」の具体的な姿と、その実現に向けた人材の確保・育成、そして林業事業体のあり方について一緒に考えます。

## 6 基調講演

## ① 『新しい林業』の目指すビジョンとそれを支える担い手について

講師：林野庁 林政部 経営課長

渡邊 泰輔(わたなべ たいすけ)

経歴：平成11年農林水産省入省。農林水産関係の様々な部署を経験。林野庁企画課調査官、同管理課調査官、農林水産大臣秘書官等を経て現職に就任。林野庁では、これまでに森林経営管理制度、国有林樹木採取権制度の創設に携わった。現在は、「新しい林業」をはじめとする林業経営体の経営力・生産性の向上や、林業労働力の確保・育成、労働安全衛生対策などに取り組んでいる。



## 7 特別講演

## ① 就業希望者に選ばれる林業事業体になるために

講師：株式会社柴田産業 代表取締役

柴田 君也(しばた きみや)

経歴：平成10年(株)柴田産業入社。「岩手の山を元気にする木材屋」をキャッチフレーズに岩手の県北にて自社で植林、伐採、運材、製材、加工、チップ販売と、一貫施行を特徴とする森林資源の持続可能な循環利用を行う。また、アウトドアメーカーと林業ウェアの共同開発を行いユニホームとして採用。一次産業のイメージアップにも取り組んでいる。



## ② 人を育て、組織のモチベーションを高める仕組みづくり

講師：株式会社栃毛木材工業 代表取締役

関口 弘(せきぐち ひろし)

経歴：昭和46年栃木県生まれ。高校卒業後、(有)栃毛木材工業に入社し林業に従事。平成26年、代表取締役に就任。「1本の苗木から家づくりまで」をコンセプトに、国産材の普及や脱炭素社会を目指した森林づくりを行う。社訓は「社員の笑顔が見たくて」。社員の満足度や幸福度が向上する取り組みを進めている。

